比較家族史学会

会報 比較家族史 42

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1―7 弘文堂気付
郵便振替（会費）00130-4-25222 （年報バックナンバー・その他）00180-3-604964

比較家族史学会第四五回研究大会

日時 二〇〇四年六月五日（土）・六日（日）
場所 専修大学（別添地図参照）
〒101-8425 東京都千代田区神田神保町三―八
（総武線水道橋駅、地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線九段下駅、地下鉄半蔵門線・都営三田線・都営新宿線神保町駅下車）
問合せ先 高木研究室 〇三―三二六五―九三七四
不在のとき研究室受付 三二六五―六二一七
会場 一号館二階（会場の教室は当日掲示）
一〇〇〇円（会員以外の方も）

テーマ アジールと家族③

■一日目・六月五日（土）午前一〇時三〇分～
（午前一〇時〇〇分 受付開始）

□会長挨拶 鎌田 浩（専修大学名誉教授） 一〇時三〇分～一〇時四〇分
・小玉亮子（横浜市立大学）
「ワイマール期における〈ドイツ子だくさん家族全国連盟〉と母の日」 一〇時四〇分～一一時二五分
・堀田幸義（東北大学）
「近世武家の『名』と社会」 一一時二五分～一二時一〇分
□昼食 一二時一〇分～一三時一〇分
□総会 一三時一〇分～一三時五〇分
・磯田道史（茨城大学）
「幕末武士の家族と家計」 一三時五〇分～一五時三五分
・鬼頭 宏（上智大学）
「歴史人口学における家族研究の課題―離婚と再婚をめぐって」 一五時三五分～一六時二〇分
（休憩）
□シンポジウム〈アジールと家族〉
・Diana Wright ダイアナ・ライト（西ワシントン大学）
「外国における縁切寺研究」 一六時四五分～一七時三〇分
□懇親会（一八時～） 会費 六〇〇〇円

■第二日・六月六日（日）
・若尾祐司（名古屋大学）
「アジールとは何か」 一〇時〇〇分～一〇時四〇分
・国方敬司（山形大学）
「アジールとしての近代家族」 一〇時四〇分～一一時二〇分
・本間浩（法政大学）
「難民問題の歴史と現在」 一一時二〇分～一二時〇〇分
□昼食 一二時〇〇分～一三時〇〇分
・近藤潤三（愛知教育大学）
「現代ドイツのアジール政策」 一三時〇〇分～一三時五〇分
□ディスカッション 一四時〇〇分～一六時〇〇分
司会 戒能民江・高木侃・若尾祐司
運営委員 高木侃（専修大学・委員長）・青木美智男（専修大学）・網野房子（専修大学）・戒能民江（お茶の水女子大学）・若尾祐司（名古屋大学）

■大会運営委員会から

参加費など以下の通りです。

・参加費　一〇〇〇円（会員以外の方も）

・懇親会　六〇〇〇円

懇親会会場　八号館二階

今村力三郎記念ホール

（大会会場と違いますので、ご案内します）

・弁当　一〇〇〇円（飲み物付き）

（周辺の食堂などは土曜日は若干開いていますが、日曜日は休業が多いのでお申し込みを）

・宿泊

（各自宿泊先をご予約いただきたくお願いいたします）

○シンポジウムの趣旨

四二・四三回大会に続いて、三回目の大会になり、シンポジウムを行う。

一回目は、開館10周年を迎えた縁切寺満徳寺資料館とその所在する尾島町と共催で開かれた。

アジールといえば、古今東西あらゆる社会に存在したといわれるが、古くは旧約聖書に、「逃避邑（のがれのさと）」とあり、ヨルダン川の東西に各三ヶ所あって、過失殺人犯がここへ逃げ込み、そこに留まるかぎり、その生命は報復者から保護された。まず、ヨーロッパにおける長いアジールの歴史と今日的問題を阿部謹也氏に特別講演というかたちでお願いした。

わが国では承久の乱（1221年）における敗残兵を、袖の中・袈裟の下に隠しても救済すると、命を賭した高山寺の明恵上人が想起されるが、法制上は戦国時代アジールが衰退し、制限・禁止される規定としてあらわれる。このアジールの近世的変容としての縁切寺について報告がなされた。また従来からの問題であるDVは、防止法の施行にともなって、いわゆるシェルター（避難所）への関心や対応について具体的な事例を提示しつつ、そこに見え隠れする夫婦と子供・男女など家族の問題を取り上げた。

二回目は沖縄での開催で、沖縄固有の問題を扱った。沖縄におけるアジールと家族について、そもそも沖縄にアジールは存在したのか、存在したとするならどのようなものであったのかという議論から始まり、アメリカの軍事支配と排他的な国民創設を目的とした日本の国籍制度がもたらしたアメラジアンの問題を、アメラジアン・スクールが沖縄社会に持つ意味を考えた。さらに、沖縄におけるDV問題の構造の特徴と取り組みの現実等の報告がなされた。しかし、ややアジールの意味が拡散されて議論されたように観ぜられた。

今回は、あらためて「アジールとは何か」からはじめる。アジールとは旧約聖書に出てくる「逃避邑」あるいは「避難所」で、「犯罪人または奴隷などが保護を請うて逃げ込むと、これを追及できなくなる制度」とされるが、現代社会でも注目されるアジールの根源的な意味を問いなおしてみる。その上で、中世西欧の「家」では「家の平和」が支配し、家長の支配権力が貫徹する一方で、アジールとして機能していた。「家」から経営が分離してしまった近代家族においては、誰が何から保護され、そのアジールとしての機能はどのような帰結を伴ったのか、を検討してもらい、「近代家族へ」をアジールの側面からみなおす。

さらに、これまで阿部氏の講演で簡単にふれるにとどめた亡命・難民問題を取り上げる。国際法を専門とする立場から、「難民問題の歴史と現在」ではフランス革命期以降の近代国際社会における難民問題と庇護法の進展過程を、庇護制度の基盤となる時代の理念と結び付けつつ顧みていただき、そのうえで日本の、国際的な難民庇護制度への姿勢と難民保護法制の問題点を、現状の問題点を含めて法・政治的観点から分析していただく。これを総論とするならば、「現代ドイツのアジール政策」は各論的にドイツの事例を取り上げる。ドイツでは1993年に憲法に当たる基本法が改正され、それまでの寛大な難民政策は大きく転換した。その背景には難民の激増と排外暴力事件の多発、極右政党の台頭がある。また難民政策が移民政策の機能を担うと言う移民問題の文脈が重要である。主にこの政策転換とその後の状況について、ヨーロッパとくにドイツの現状が報告される。

わが国のアジールとしては、徳川時代の縁切寺が有名であるが、スタンダールが「不幸な女性のための楽園」つまり縁切寺を夢見ていたとき、世界に二つの縁切寺が存在した。これは世界史的にみて極めて特異な制度であり、外国の研究者が数名取り組んでいる。「外国における縁切寺研究」がどのような視点からなされているのか、その現状とご自身の縁切寺研究の端緒などにもふれてい

ただく予定である。本シンポジウムにおいて、アジール研究の学際的で、本格的な研究につなげることができれば幸いである。

■事務局からの連絡

1　会費納入のお願い

年会費は、個人会員は三〇〇〇円、賛助会員は五万円です。今回は今年度分（未納分のある方はそれを含めて）の会費をお願い申上げ、振込み用紙を同封しております。住所ラベルの右下の既納年度（平成十六年四月二十五日現在）が更新してありますが、同日以降の振込、および行き違いの節はご宥恕ください。

04以降の数字であれば今年度分は納入済みを意味しますので、振込用紙は入れてありません。

なお、税法上の関係で学校法人名で振り込まれる方は必ず通信欄にご氏名を書いてください。

2　『シリーズ比較家族』の購入について

『変貌する東アジアの家族』が刊行されました。また『シリーズ比較家族』既刊分のチラシを同封しました。これまでもたびたびお願い申し上げましたが、現下の出版状況から、とくに会員及び会員の所属各大学図書館での購入方につき、特段のご協力をお願いします。

3　『比較家族史研究』バックナンバーについて

在庫処分のご協力をお願いします。

既刊分14号までは一冊500円に値下げして販売いたします。15号以降は一冊1440円です。また既刊分の総目次は学会HPに掲載予定です。創刊号～5号までははは在庫がありません。購入希望の方は、学会事務局へご連絡下さい。

4　『事典家族』と弘文堂書籍の購入について

これらはいずれも会員および会員紹介者には二割引の特価販売としていただいております。注文は直接弘文堂へご連絡ください。

5　『家族―世紀を超えて』について

一昨年秋の大会に間に合わせて日本経済評論社から出版された、本学会の20周年記念論集『家族』についても、チラシを同封いたしました。これのご購入方（二割引）についてもお願い申し上げます。

6　事務局連絡先

〒101-8425　東京都千代田区神田神保町三の八
専修大学法学部　高木侃研究室気付　比較家族史学会
電話　03―3265―9374（直通）
FAX　03―3265―6297
e-mail

■理事会議事録

日時　2003年10月24日（金）午後5時
場所　専修大学1号館
出席者数　三九名（委任状を含む）

1　新入会員および退会の承認

新入会員六名（別項参照）と坪内玲子・中山そみ・吉田孝氏の退会が承認された。

2　年報編集状況

18号の編集状況が報告された。また年報のバックナンバーが累積し、事務局業務に支障を生ずることから、次号以降の出版部数を七〇〇部とすることが承認された。

3　『シリーズ比較家族』について

各巻の状況報告のあと、『シリーズ比較家族』の企画・編集については、周到な準備と計画にもとづいた刊行のプロセスが沖縄大会のときに提示されて了解されたが、その内容につき、簡略にわかりやすくすべきとの異見がだされ、早大出版部とも協議をなし、執筆要項等をあらためて提出することとなった（HPに掲載）。

4　学術会議関連

目下の状況が報告され、また基礎法学研究連絡委員の選出がなされておらず、会長と事務局に人選を一任された（委員には高木侃があたることとなった）。

5　四四回研究大会について

家永運営委員長と森理事から大会とその後の出版計画等の説明がなされた。

6　次回・次々回大会について

今春の大会と、今秋京都大学における日程と内容の説明がなされ、了承された。京都大会は落合恵美子氏を運営委員長とし、テーマ「歴史人口学と家族」、日時は10月23日（土）・24日（日）両日である。

7　会費未納者の取り扱い

会則第13条では3年分未納者は退会したものとみなすとあるが、これまで本規定をそのまま適用したことはない。そこで4、5年分を目安に弾力的な取り扱いをすることとする。

8　その他

学会ＨＰの作成が了承され、その業務を委託し、年度内に立ち上げることとする。

■学会ＨＰについて

まだ一部工事中ですが、ＨＰが立ち上がりました。

アドレスは

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jscfh/index.html

■総会議事録

理事会議決を承認いただいたもので、紙幅の関係で省略いたします。

■新入会員

山上亜紀（成蹊大学院生・文化人類学）・広瀬玲子（北海道情報大学・女性史、日本近代史）・鈴木規之（琉球大学・国際社会学）・比嘉政夫（沖縄大学・社会人類学）・脇坂真理子（東京都立大学院生・家族社会学、家族法）・山地久美子（神戸大学院生・社会学・ジェンダー論）・井上修平（明治大学院生・社会人類学）

（住所は三月のお知らせに掲載）

■住所・所属等の変更

田中真砂子　佐藤直樹

小野博史　近藤佳代子

米村千代　陳　鳳

田澤　薫

田中華子（尚絅学院大学）

川鍋定男（モンゴル文化教育大学）

辻垣晃一

沢田裕治

岸田史生

永野由紀子

服部　誠

中山まき子

女子大学）（同志社

（受付順・所属変更はカッコ内）

■会員著書・受贈著書

（単行本・事務局に連絡のあったもの）

・吉川悟／村上雅彦／東豊編『家族はこんなふうに変わる』昭和堂、二〇〇二年、七八〇〇円

・小松裕／田中正造研究会編『足尾鉱毒事件と熊本』熊本出版文化会館、二〇〇三年、三八〇〇円

・永原和子編『家業と役割　日本家族史論集Ⅱ』吉川弘文館、二〇〇三年、六三〇〇円

・速水融編『歴史人口学と家族史』藤原書店、二〇〇三年、八八〇〇円

・渡辺秀樹／稲葉昭英／嶋崎尚子編『現代家族の構造と変容』東京大学出版会、二〇〇四年、七八〇〇円

・新長明美『かまど神と「はだかかべ」』日本経済評論社、二〇〇四年、二五〇〇円

・関口裕子『日本古代家族史の研究（上・下）』塙書房、二〇〇四年、上下とも一万二〇〇〇円

・清水浩昭・森謙二・岩上真珠・山田昌弘編『家族革命』弘文堂、二〇〇四年、二〇〇〇円

（いずれも消費税は含まれておりません）

■転居先不明で返送された左記の方の住所ご存知でしたらご連絡ください。

劉　夏加・春日キスヨ・大森秀子・萩原なつ子